

2018.10
(公社)富山県薬剤師会
広報誌

とみ やく 富 薬

10号

第40巻

No.351



サンザシ *Crataegus cuneata* Sieb. et Zucc. (バラ科 Rosaceae)

生 薬

サンザシ（山査子） 秋、完熟する少し前の偽果を採り、陽乾する。粒が揃い、色が赤く、堅いものが良品。

成 分

青酸配糖体：amygdalin、フラボノイド：hyperoside, quercetin, vitexin、トリテルペノイド：ursolic acid, crataegolic acid, maslinic acid、フェノール類：chlorogenic acid、酒石酸、ビタミン B₁、B₂、C、シュウ酸、タンニンなど。

効 能

消化、整腸、健胃、鎮静薬として胃炎、胃拡張、食欲不振、二日酔いに用いる。啓脾湯などの漢方処方にも配合される。



生薬 サンザシ

元富山県薬事研究所
薬用植物指導センター

村上守一氏 写真撮影

〇〇表紙について〇〇



サンザシ属は北半球の温帯地域を中心に約280種が分布する樹木で、属学名の*Crataegus*はギリシア語のkratos(力)とagein(持つ)から成り、堅い木質から名づけられたと言われています。欧米では園芸的価値が高く、花や実、紅葉など観賞用として公園などに植栽されます。しかし、葉や食用として果実が利用される種は少なく、第十七改正日本薬局方ではサンザシとオオミサンザシ(*C. pinnatifida* var. *major*)の2種が収載されているにすぎません。

サンザシは中国長江流域以南に自生する高さ1.5mほどの落葉低木で、枝に刺があります。花は5-6月に咲き、5-6個束生して散房花序をなし、花冠は白色、花弁は5枚。8-10月に結実する偽果(ナシ状果)は比較的小さく直径約1-1.5cm、赤黄色円形で、甘味、酸味とも薄く、食用には適さず薬用のみに供されています。オオミサンザシは中国東北部、朝鮮、東シベリアを原産とする高さ6-8mになる落葉高木で、刺はわずかか、あるいはまったくありません。5月頃に咲く花は10-12個が集まって散房花序をなします。花冠は白色または淡紅色を帯び、直径8-13mm、花弁は5枚。8-10月に実る偽果は球形または卵円形で、直径2.5cmと大きく変種名の*major*(より大きい)の語源になっています。深紅色で、白色の斑点が多数あり、先端には外に曲った縮存する萼があります。種子は5個。クエン酸やビタミンCを多く含み、適度な酸味と甘みにより生食はもちろん、ドライフルーツやジャム、糖菓、果汁、密饅、山査糕、山査片、冰糖葫蘆、果実酒などに使われます。

以上2種とも中国原産の樹木で、本草書に登場するのは『新修本草』(659)が初めてで「山南の申、安、隋の諸州に産する。小さい樹で、高さ五六尺、葉は香糕(*Mosla* sp.?)に似る。子は虎掌(*Aconitum* sp.?)に似て、大いさは小さい林檎ほどで赤色だ」、「煮汁を服すれば水痢を止める。頭を沐し、身を洗えば瘡癢を治す」と言い、『図経本草』(1062)には「棠棣子は滁州に生ずる。二月に白花を開き、随って実を結ぶ。採取に一定の時期はない。彼の地ではそれを下痢、及び腰疼を治するに用い、効がある」、また李時珍は赤瓜、棠棣、山楂は一物であって、古方には用いたことが罕である。…丹溪朱氏(1281-1358)が初めて山楂の功を著録してから、後に遂に要薬となったものである」と、比較的遅く薬として用いられたようです。

日本においては享保19年(1734)に朝鮮から渡来したと種々の書物に記されていますが、小石川御薬園(1684開園)の御預御薬草木書付控の享保十一丙午年中(1726)に「吹上より 山楂 十四本」と、江戸城吹上御庭に苗14本が移植された記録があることから実際にはもう少し早かったのではと考えられています。この時植栽された株は現在の東京大学付属小石川植物園に現在も存在しています。また、京都の公家、近衛家熙(1667-1736)の『花木真写』に描かれていることから同じことが推測されます。『本草綱目啓蒙』(1803)には詳しく「小木にして高さ四五尺、叢生す。枝また多く繁りて、刺あり。春新葉を互生す。長さ一寸許、五岐七岐にして鋸齒あり。枝梢に三四月白花簇生す。梅花の形に似て辨皆上に向う。後、実を結ぶ。形、林檎に似て大さ六七分許。秋に至り熟して赤し。又黄色なる者あり。内に核あり。牽牛子の如し。葉には核を去り、肉を用ゆ」と間違いなくサンザシを形容しています。加えて「一種喬木になる者あり。高さ二三丈、或は叢生して二丈許なるもあり。是をオオサンザシ(*C. pinnatifida*)と呼ぶ」と別種をも解説しています。(村上守一 記)